

神奈川県立中原養護学校における学校運営協議会開催結果

○ 本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

会議等名称	令和4年度神奈川県立中原養護学校 第3回学校運営協議会		
開催日時	令和5年2月21日(火) 9:30~11:00		
開催場所	本校図書会議室		
出席者	学校運営協議会委員8名、事務局12名		
次回開催予定日	令和5年度6月予定		
問合せ先	神奈川県立中原養護学校副校長 坂戸 博子 電話(044)755-5018		
下欄に掲載するもの	・議事録・議事概要	公開を概要とした理由	
会議等経過	<p>○開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長挨拶 ・校長挨拶 <p>(1) 学校評価の年間評価報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学部・分教室の年間評価について ② 各グループの年間評価について <p>(2) 切れ目ない支援部会報告</p> <p>(3) 学校関係者評価</p> <p>1) 教育課程・学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を実施した成果が児童生徒にどのように影響したのかの視点がある とよい。→教員からも「生徒の声を聞きたい」との意見が出ているので、次年度は取り入れながら評価していきたい。 <p>2) 児童・生徒指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職や経験豊富な方を講師に招いての研修を実施している。地域の資源を活用していきたい。 ・ICT支援について、視線入力装置のより一層の活用を次年度に向けて進めている。現在はiPadやタブレットを使った授業やオンライン授業等を行っている。 ・iPadをオンラインで繋いで、生徒の自宅から授業の一部に参加した例もある。個別面談や入学者選抜で「Google Meet」を活用したこともある。 <p>3) 進路指導・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの取組を進路に活かしていけるとよい。 ・キャリアパスポートについて、学校でどのように活用するかを組織的にまとめられていない状況はある。これから検討が必要という部分が多い。 ・キャリアパスポートについて、ゴールやあるべき理想の姿がわからないという思いが個人的にはある。特別なものではなく、行事の振り返り等々をファイリングして見返して振り返ってもらうというようなことをしている。 <p>4) 地域等との協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「Twitter」は、地域の方も見られるということであれば、コロナで中止になったイベント、バザー等の場を設けて、身近な場で情報発信がされると、地域に 		

としてはより親近感が持て、コミュニケーションが取りやすいと思う。

5) 学校管理・学校運営

- ・事故不祥事防止に学校は力を入れている。「ミスはあるかもしれないが、ミスを事故にしない取り組みが大事である」と県は言っていた。ヒヤリハットはあるのが当然であり、ヒヤリハットは多いほど安心という考え方もある。
- ・研修で聞いた「その人が気づいたことをスルーしてしまうと、それは何にもなかったことになってしまう」という内容が印象に残っている。教員が共有していく積み重ねが大事である。
- ・川崎市中央療育センターでは、医療的ケアに対しては、マニュアルを作っており、迅速に対応できた。診療所もあるので、協力できると思う。

(4) 協議

テーマ①「学習活動場面での地域資源の活用について」

- ・知的障害教育部門高等部の取り組みの紹介

郵便局や福祉事業所と外部講師や作品展示等で連携した。また、箱折り、封入、シール貼り等、企業から物品を提供してもらい、実習を行った。さらに、さくらが丘自治体の許可をもらって、清掃活動に取り組んだ。

- ・生徒の様子について知りたい。

→とても効果的に学習を進められた。外部講師が来て、その道のプロが教えてくれるというわかりやすさがあった。物品を提供してもらい、失敗は許されないという、よい緊張感を設定できた。さくらが丘の清掃という場所を提供してもらったことで、地域社会の一員としての意識が芽生えた。

- ・さくらが丘の清掃活動について、生徒からの意見があったら知りたい。

→落ち葉の時期で、生徒はやりがいを感じていた。目に見えて綺麗になるという体験を得られた。事業所の敷地内の掃除をやらせてもらって、感謝状をいただき、目に見える形で成果を感じられたというのもよかった。

- ・外部講師にその授業がどうだったかを返していくことで、良い形で次につながると思う。

テーマ②「地域が求める中原養護学校の役割について」

- ・自治会で教員募集のチラシを配布し、2名の職員が入ったと聞いた。繋がりがうまくいった例である。その2名の教員から、中原養護学校がどんなことをしているかの発信があると、より関係が深まると思う。
- ・地域の成人の障害者の相談や支援方法などについて、懇談会等があるとよい。
- ・地域性を生かし、学齢前から成人まで繋がる連絡会があると切れ目のない支援に近づいた形になるかもしれない。
- ・コロナで最近はできていないが、居住地交流を実施している。また、学校間交流として、中2が作品交流をしている。学年だけでなく、全校に伝えていくことで、子どもたちの共生教育を行いたい。今後も続けたい。

○閉会

- ・校長挨拶